

博士論文内容の要旨及び博士論文審査結果の要旨

氏名(生年月日)	森山 美香	(****年**月**日)
本籍	*****	
学位(専攻分野)	博士(保健看護学)	
学位授与番号	甲第153号	
学位授与日付	平成31年3月14日	
学位授与の要件	学位規程第3条第3項該当	
論文題目	DNAR(do not attempt resuscitation)の意思決定を行う家族 に関わるクリティカルケア看護師の困難感に関する研究	
審査委員	教授 大田 直実	教授 中新 美保子
	教授 松本 啓子	

博士論文内容の要旨

DNAR(do not attempt resuscitation)の意思決定を行う家族に関わる上でのクリティカルケア看護師の困難感を明らかにする為に、困難感を現象として捉えた分析等の検討から、困難感尺度を作成した。第I章では、文献検討から、クリティカルケア看護師は、DNARの意思決定を行う家族への支援の必要性を認識し、看護実践を行っているが、家族に十分に関われないジレンマや不全感があることが明らかとなった。第II章では、DNARの意思決定を行う家族に関わる上での困難感を現象として捉え、質的分析を実施した。結果【関係構築のしづらさ】、【家族に踏み込むことへの躊躇】、【連携体制の調整の未熟さ】、【ケアの不全感】の4カテゴリーが抽出された。第III章では、DNARの意思決定を行う家族に関わる上でのクリティカルケア看護師の困難感尺度を作成した。分析の結果、信頼性及び妥当性を兼ね備えた尺度として判断された。

博士論文審査結果の要旨

本研究では、DNARの意思決定を行う家族に関わる上でのクリティカルケア看護師の困難感尺度を作成した。まず、国内外の文献検討から、わが国のクリティカルケア看護師は、DNARの意思決定を行う家族への支援の必要性を認識しているが、家族に十分に関われないジレンマや不全感があることを明らかにした。そのうえで、DNARの意思決定を行う家族に関わる上での困難感を現象として捉え、質的な調査および分析を実施した。結果【関係構築のしづらさ】、【家族に踏み込むことへの躊躇】、【連携体制の調整の未熟さ】、【ケアの不全感】の4カテゴリーを抽出した。それらを踏まえ、DNARの意思決定を行う家族に関わる上でのクリティカルケア看護師の困難感尺度を作成し、信頼性および妥当性を検証した。その結果、本研究の尺度のモデルの適合度はGFI=0.88、AGFI=0.86、CFI=0.91、RMSEA=0.05で、信頼性・妥当性とも良好な結果であった。本研究で開発された尺度を適用することで、クリティカルケア看護師個々、および各施設のDNARの意思決定を行う家族と関わる上での課題を明確化することになる。それにより、改善の方向性が示され、わが国のDNARの意思決定を行う家族に対するクリティカルケア看護師の主体的な関わりの促進に繋がること示唆されたことは、独創性が高いといえる。以上のことから、本研究はわが国の重症・集中ケアを担う看護学にとり意義のある研究であり、保健看護学(博士)の学位を有するに値するため合格とした。